

日本アニメの飛翔期を探る

アニメ・カルチャー展



「長靴をはいた猫」(1969) ©東映アニメーション

Anime-Culture

2001.7.27[金]—9.2[日]

開館時間 火～金曜日 9:30～19:00 土・日曜日・祝日 9:30～17:00
入室はいつでも閉館30分前まで 初日は10時開展式

休館日 月曜日

入場料 一般 600円(480円) / 高大生 400円(320円) / 小中生 200円(160円)

◎()内は前売りおよび20名様以上の団体料金

◎65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料

主催=高松市美術館 / 読売新聞大阪本社 / 西日本放送 / 美術館連絡協議会

協賛=花王株式会社 特別協力=東映アニメーション株式会社



「わんぱく王子の大蛇退治」(1963) ©東映アニメーション



「太陽の王子・ホルスの大冒険」(1968) ©東映アニメーション



「マジンガーZ」(1972) ©ダイナミック企画・東映アニメーション

高松市美術館 Takamatsu City Museum of Art
〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711

「白蛇伝」(1958) ©東映アニメーション





日本アニメの飛翔期を探る

アニメ・カルチャー展

日本人だけでなく、世界中の人々をも魅了し、いまや日本を代表する文化の一つとなった日本のアニメーション。子供から大人まで多くの日本人が慣れ親しんできた日本アニメは、どのようにして始まり、成長してきたのでしょうか。この展示会はそうした疑問にお答えするために日本アニメの歴史を振り返ろうとするもので、公立美術館では初の試みです。

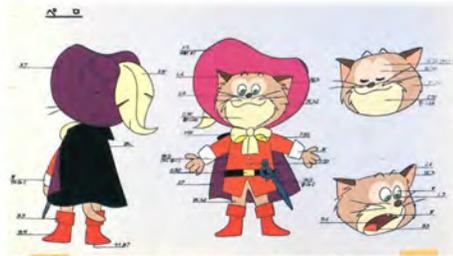
日本で初めてアニメーションが制作されたのは大正時代でした。初期の日本アニメは、圧倒的な技術力と資本力を誇るディズニーを始めとする外国製アニメに圧迫されましたが、戦後、東映動画が「東洋のディズニー」を合い言葉に、スタジオの設立や人材の育成に本格的に取り組み、充実した作品群が次々と生み出されていきました。

本展では、試行錯誤の中で生まれた傑作の数々、とりわけ「白蛇伝」(1958)に始まる東映動画の長編作品の歴史を振り返り、日本アニメの成長の基盤をこの時代に求めます。シナリオ、設定用のスケッチ、絵コンテ、原画、動画、セル画、背景画など初公開を多く含む貴重な資料の展示に、テレビ・アニメの発展や製作技術の変遷をたどる資料も加え、日本のアニメ文化の広がりを歴史的かつ多角的に検証します。

戦後めざましい発達をとげ、現在もCG(コンピュータグラフィックス)の使用など、多様化しながら進化し続ける日本のアニメ。その魅力を再認識できるまたとない機会です。



「太陽の王子・ホルスの大冒険」(1968):セル画と動画



「長靴をはいた猫」(1969):キャラクター見本セル画



「西遊記」(1960):アニメーターによるキャラクター・スケッチ

B2版ポスター



「白蛇伝」(1958) ©東映アニメーション
 「西遊記」(1960) ©東映アニメーション
 「わんぱく王子の大蛇退治」(1963) ©東映アニメーション
 「太陽の王子・ホルスの大冒険」(1968) ©東映アニメーション
 「長靴をはいた猫」(1969) ©東映アニメーション
 「キューティーハニー」(1973) ©ダイナミック企画・東映アニメーション
 「美少女戦士セーラームーン」(1992)
 ©武内直子・講談社・テレビ朝日・東映アニメーション

ギャラリートーク(展示解説)

講師:細萱 敦(ほそがや あつし)氏
 (川崎市市民ミュージアム学芸員・漫画担当)

日時:8月5日(日) ①午前11時~②午後2時~

場所:美術館2階展示室 *聴講には観覧券が必要です。

次回展覧会のお知らせ

池田満寿夫展

9月21日(金)~10月21日(日)



交通のご案内

JR 四国-JR高松駅下車、南へ徒歩15分
 琴平電鉄-瓦町駅・片原駅下車、徒歩10分
 バス路線-紺屋町バス停下車、徒歩3分
 駐車場-美術館地下に公営駐車場
 (有料、乗用車144台収容)